

会長メッセージ

「青年部大会を成功させよう」

令和5年度90周年記念全国吟道大会として、令和5年10月関西地区、11月中国地区、今年2月東京・東海地区、3月九州地区の4地区の大会はすべて盛会のうち終了しました。また、記念誌に続き、最後に「悠久の名詩選Ⅲ」を発行し、記念事業の幕を閉じました。担当されました関係者の皆様に感謝申し上げます。

年度が変わり、令和6年度がスタートするに当たって、「会員増強へのあくなき挑戦・組織ベースの拡大キャンペーン」と銘打ち、新入会員800名を目標に「新再入会促進キャンペーン」を行うこととしました。そのなかに、新教場立ち上げに際する支援も加味しました。会員増員対策として、地区連合会、各会に刺激を与えて行動を起こさせるきっかけとなるよう期待しています。

先日、漢詩にかかる記事が新聞に掲載されました。先の静岡県知事が辞任にあたって、西道仙作「城山」の一節「孤軍奮闘困みを破って還る」と心境を述べたとか、その件で本部に東京の新聞社からこの詩の意味についての問い合わせがあったのですが、知事の動向はともかく、馴染みの漢詩をこ



総本部会長 古田 哲壮

んなときに披露するのかと。ひととき、「吾が剣は既に折れ吾が馬は斃る」に思いを馳せるのでした。

ところで、今年に入り、詩吟の仲間の訃報を聞くことが続きました。「無事これ名馬」という格言があります。コンクールで上位をめざす会員もいますが、吟じることを楽しむことでもいいという会員もいます。最近の入会者は仕事をリタイア後に入会するケースもかなりあるようです。指導者の皆さん、こうした高齢の新人さんへの対応もよろしくお願いします。「無事これ名馬」元気に毎日過ごせる喜びを噛み締めましょう。

さて、本部での令和6年度メイン行事として、10月14日青年部大会を開催します。青年部大会は令和3年度以来の開催となります。今回、青年部員による構成吟「土佐日記」や優秀者吟詠のほか岡山大学吟詩部のコラボ映像のほか、中国からの友情出演があります。中華吟誦研究会は平成30年に来日されており、今回が2回目の出演となります。こうした取り組みが青年部層の取り込みや会員獲得への活性化となることを願っています。